

## 【資料紹介】

# 中村俊亀智・孚美文化人類学関連資料

坪 郷 英 彦

### 1, はじめに

中村俊亀智・孚美御夫妻はともに文化人類学を学び、この分野にいくつかの実績を残している。筆者は孚美（平成23年）、俊亀智（平成24年）の死去にともない、その蔵書を処理することになり、蔵書全体は寄贈し、その中に含まれる、研究ノート、フィールドノート、写真等からなる中村資料を預かった。本稿はその中村資料の概要を示すことを目的としている。渋沢敬三から始まる日本の民具研究の中でアチックミュージアム収集資料の管理役を担い、また収集資料を基にした研究の道を開いた中村俊亀智氏と民俗学の中で祭り研究の一分野を開いた中村孚美氏の残された資料の概要を示すことは該当学問分野の展開に寄与すると考え、またひいてはやまぐち研究の方法論としても益有ることとして資料紹介をおこなうこととした。蔵書全体は秋田県仙北市図書館に寄贈の依頼をしたところ、快く引き受けていただいた。仙北市角館は中村孚美氏が角館祭りを調査し日本民俗学に発表した地である。地元の人たちはこの論文が契機となって角館祭りが日本中の研究者に知られ、やがては国の重要民俗文化財となったと語り伝えている。蔵書は平成24年5月に仙北市角館にある仙北市教育委員会宛に運んだが段ボール箱で約500個の量であった。受け入れ作業の後、いずれ中村文庫として公開されるという。

ここで紹介する中村資料は中村俊亀智・孚美御夫妻の自宅から段ボール箱10数個に収め、山口大学坪郷研究室に運んだものである。資料は俊亀智書斎にあったものと孚美書斎にあったもので、これを順次段ボールに収めた。

### 2, 中村俊亀智略歴と業績

中村俊亀智は昭和6年4月26日生まれで本籍地は東京都である。武蔵高校を卒業後昭和25年武蔵大学経済学部に入學、昭和29年には東京都立大学大学院社会科学研究所経済政策専攻に入學、この修士課程を昭和32年に修了する。修了後は昭和32年4月から財団法人民族学協会附属民族学博物館研究員に奉職する。昭和37年7月には民族学博物館所蔵資料が国に移管されるに伴い、文部事務官（研究職）文部省大学学術局学術課史料館勤務となる。昭和47年国立国文学研究資料館・資料館助手となり、昭和48年に国立民族学博物館創設準備室助手を併任、昭和49年に国立民族学研究博物館助教

授、昭和51年に同館教授となる。国立民族学博物館で民族資料担当、オセアニア地域担当、民族技術担当を務め昭和63年に同館辞職、明海大学経済学部教授となる。明海大学では文化人類学、日本文化論、比較文化論を担当した。平成10年には明海大学大学院も兼任し、平成14年に退職した。それぞれ国立民族学博物館名誉教授、明海大学名誉教授の称号を与えられた。この他、九州芸術工科大学芸術工学部、甲南大学文学部、京都大学教養部、千葉大学工学部、武蔵大学人文学部、東洋大学社会学部、武蔵大学人文学部、日本女子大学住居学部で非常勤講師を務めた。

中村俊亀智は中村たかをのペンネームで多くの著書、研究論文がある。文化人類学の社会経済的側面から生活用具（民具）を研究することが一貫した研究姿勢である。民具研究、生活用具論研究にとっては重要な論考が多く含まれているので、業績の全容を表1に示した。俊亀智氏の業績一覧も次に紹介する孚美氏の業績一覧も資料の中から見いだした自筆業績に基づいて作成したものである。代表的な著作としては「日本の民具」（単著、弘文堂、昭和56年）、「日本の労働着」（編著、源流社、昭和63年）、「現代のエスプリ48民具、日本人の智恵と意匠」（編著、至文堂、昭和49年）、がある。大学テキストとしては「図説生活文化論」（共著、源流社、平成元年）、「新訂生活文化論-住まいと食の文化とその周辺-」（共著、源流社、平成9年）「文化人類学史序説」（単著、源流社、平成9年）「博物館概論普及版」（編著、源流社、平成8年）がある。学術論文は文部省資料館時代から収蔵資料を基点としての論考が多く、日本列島の竹籠の分布研究、アチックミュージアムから始まる民具研究史にまとまったものがある。また、晩年自らの研究史やアチックミュージアムから国立民族学博物館までの資料の移り変わりや背景の組織や研究の移り変わりを源流社の広報誌「げんりゅう」に連載している。

### 3. 中村孚美略歴と業績

旧姓は桑野孚美で昭和12年8月17日生まれ、本籍は東京都である。昭和31年成城学園高校を卒業、4月に東京都立大学人文学部に入学、法学を専攻する。同大学卒業後1年間立教大学博物館学講座聴講生となり、昭和36年に東京都立大学大学院社会科学研究科社会人類学専攻修士課程に入学する。修了後昭和40年4月に同専攻博士課程に進み、昭和46年3月に単位取得満期退学する。その後は東京外国語大学外国語学部、東京都立大学人文学部、同大学院社会科学研究科、明治学院大学社会学部、筑波大学歴史人類学系、東洋大学文学部他で兼任講師を続ける。昭和57年4月に慶應義塾大学文学部史学科助教授として採用され、担当は民族学・民族学演習・民族学特殊・民族学研究法・原典購読であった。平成61年4月同教授となり、担当は民族学・民族学特殊・

民族学研究法・大学院民族学特殊講義・演習であった。平成4年に同大学を退職している。

中村孚美の業績の全体像は遺族により氏の祭り関係の論文をまとめ自費出版された「日本の祭り」の巻末に載せたが、広く研究者には行き渡らないと思われるので、ここに表2として再掲した。孚美氏の研究領域は法人類学、モンゴル研究、都市人類学であり。祭り研究は都市人類学の具体的方法として位置づけられる。代表的なものだけ挙げると、法人類学に関するものとしては「E.A.ホーベル著、法人類学の基礎理論－未開人の法－、ハーバード大学出版会、1954」（共訳、弘文堂、昭和59年）がある。都市人類学に関するものとして「現代の人類学2都市人類学」（編著、至文堂、昭和59年）、概説書として「F.トリペット著、騎馬民族の出現、タイムライフブック、1974」（単訳、タイムライフブックス、昭和52年）がある。モンゴルに関する研究や日本の伝統的祭りに関する研究、そして学史に関するものは学術論文として多く出されている。

#### 4、中村資料の概要

資料を含む蔵書全体を運び出すために、まず、部屋に記号を振り、それぞれの段ボール箱に記号を付した。書物とは別にノート、写真など、研究にも、生活にも関する資料を別に段ボール箱詰めを行ったが、その際に記号の部屋のさらに特定の場所を示すメモを段ボール箱に付していった。この情報が俊亀智か孚美かの主体を知ること、具体的な所在場所を示している。

山口大学に移送された段ボール箱は学生の協力を得て、一箱ずつ、内容物の分類を行い、同類を袋詰めにし、元の箱に戻した。作業は平成24年11月から平成25年1月にかけて行った。この過程で作成したのが表3である。表3の項目は、一番左の欄の通し番号は段ボール箱一つずつに振った番号である。元箱に記された記号は中村邸において資料詰めの際に付されたもので、箱詰めは2名で行ったが、事前に表記の統一をしていなかったためバラバラである。最終的には今回打った通し番号が有効になると思われる。箱の表記に続いて袋ごとの枝番を付した。内容の項目は袋ごとの中身を示したものである。備考の項目には元の段ボール箱に書かれた内容を示すメモ書きを掲載した。特に孚美氏の書齋では細かな所在位置を示すメモがあり、それを掲載した。細かな所在位置を付したのは書齋の復元も可能なようにとのアイデアが資料整理に集まった人たちとの打ち合わせの中で生まれたためである。角館市に送ったものの中に蔵書とともに孚美氏の書齋にあった書棚数点もあり、これとあわせて書齋の復元も可能である。

資料の細かな記述、分析は今後の課題であるが、整理途中での気づきを述べておきたい。まず気づくのが写真のスライド及びネガが多いことである。俊亀智氏の方は写真ネガ全体に番号が付され、撮影年と場所が記載されている。孚美氏の資料では祭り調査の写真が多いが、分散しているものの個々のスライドやネガには撮影年や場所が示されている。これら写真資料の整理とまとめが急務と思われる。民具技術の中には失われたものや、現在継続しつつも暮らしの中で息づいていた民具の原形が見失われたものも少なくない。論文等の記述と写真の対応関係を探しながら整理を進めていく必要がある。孚美氏の写真は祭り関係が多く、資料目録の内容表記からだけではあるが昭和37年から昭和50年頃までの祭り写真は地元の人たちにとって古い祭りの形や町の様子記録として重要な意味を持つと思われる。フィールドでの写真記録とともに丁寧に書かれたフィールドノートも多い、この整理も今後の課題である。

他に詳細な研究ノートや特に孚美氏の資料の中に含まれる大学・大学院時代の講義受講ノートが多く残されており、どのような現代的意味があるかわからないが、そのリストだけでも作成する必要があると考える。

御夫妻の遺志はまず学ばれたフィールドである地域の人たちに恩返しをすることであり、次にその学問分野の将来に一助となることととらえ、この資料整理を細々と続けていく計画である。

この資料整理は山口大学人文学部研究プロジェクト事業の補助を得て行われたものである。

## 参考文献

「文化人類学者・中村孚美先生の歩みとその仕事」、坪郷英彦、「都市の祭り・中村孚美遺稿論文集」、私家版、2013年4月2日、246-252頁。

「中村俊亀智（たかを）先生を悼む」、坪郷英彦、民俗建築第143号、日本民俗建築学会、2013年5月30日、102-104頁。

表 1

	著者、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
I. 著書					
1	文部省史料館所蔵民族資料図版目録第1巻～第5巻	単著	昭和42年11月～昭和47年3月	文部省	文部省史料館所蔵のアチック・ミュージアム・コレクション（現在国立民族学博物館蔵）のうち約8000点の写真、解説つき図版目録。
2	人類学	共著	昭和49年	犀書房	(著者) 高橋統一、青柳清孝、黒田信一郎、中村俊亀智 (概要) 大学専門、教養課程の教科書としてつくられた人類学の概説。とくに現代的課題を重視した。人類学の形成、文化と技術、現代文化と人類学等の章40頁を担当。
3	民具、日本人の智慧と意匠	共著	昭和49年6月	至文堂 「現代のエスプリ48」	(著者) 岡 正雄、宮本常一、八幡一郎、中村俊亀智 他13名 (概要) 民具研究上の重要文献を集成したもの。民具研究の概要、各文献解説を加えた。全編の編集および「概説・民具へのいざない」21頁、各文献解説計10頁を担当。
4	民具資料調査・整理の実務	共著	昭和50年4月	柏書房 「地方史マニュアル8」	(著者) 宮本馨太郎、大島暁雄、田辺悟、中村俊亀智 (概要) 民具研究者、文化行政担当者のための手引き書として執筆された。民具の収集法、分類整理法、研究法などの実際と問題点を体系的にとりあげた。民具研究法73頁を担当。
5	博物館概論	共著	昭和53年5月	学苑社	(著者) 伊藤寿朗、森田恒之、小川知二、林公義、広瀬鎮、後藤和民、中村俊亀智 (概要) 大学学芸員養成コースのテキストとして執筆されたもの。) 資料収集と情報化、博物館と地方行政の2章計37頁を担当。
6	日本の民具	単著	昭和56年2月	弘文堂KK	有形文化財として注目されている庶民の生活用具としての民具の体系的概論書。特に民族技術学的視点を重視した。
7	民家と民具	共著	昭和56年8月	講談社 「日本の博物館3」	(著者) 杉本尚次、中村俊亀智 (概要) 日本の代表的民家博物館としての所蔵民具の図版と概説をとおして、農山漁村の生活文化を紹介した。) 民家の移りゆき、合掌造りと曲家の生活、日本民具の成り立ちなど15頁を担当。
8	日本の労働着	共著	昭和63年7月	源流社	(著者) 西村綾子、日浅治枝子、西垣一郎、石崎錦、坪郷英彦、宇治谷恵、山崎光子、中嶋朝子、宇野安子、中村俊亀智 (概要) 国立民族博物館所蔵旧アチックミュージアム・コレクションの労働着を分類整理し、体系化したもの。) 編者と本文中総論7頁を担当。

9	図説生活文化論	共著	平成元年 5月	源流社	(著者) 坪郷英彦、上田啓司、中村俊 亀智 (概要) 技術とデザイン論の立場から 日本の生活文化の全体的推移を図説し たもの。
10	博物館学概論(普 及版)	編著	平成8年4 月	源流社	
11	新訂生活文化論－ 住まいと食の文化 とその周辺－	共著	平成9年5 月	源流社	
12	文化人類学史序説	単著	平成9年 12月	源流社	
II. 学術論文					
1	なまはげ覚書	単著	昭和27年 3月	日本民族学協会 「民族学研究」16巻 34号	秋田男鹿地方のなまはげ行事と同系統 の行事が日本各地にひろく分布するこ とを検証し、国内外の祭祀結社に共通 する古い要素が残されている点を論じ た。
2	技術変化と村落社 会	単著	昭和33年 3月	日本人類学会 「人類学雑誌」66-3	奥武蔵村落の文化変化を例にして山村 の技術変化と社会構造の関係を考察し た。
3	木地屋管見	共著	昭和36年 3月	日本民族学会 「民族学研究」25-1・ 2	(著者) 桑野孚美、中村俊亀智 (概要) 木曾某地域の木地師の実態調 査の報告を中心に、社会構造と技術の 関係を論じた。
4	籠細工、その技術 伝統と変化	単著	昭和38年 6月	「民族学研究」27-3	戦前戦後のかご細工の生産地の実態と 技術変化の様相を論じた。
5	篩	単著	昭和38年 9月	平凡社 『民族学ノート』	中部地方某所の篩作りの技術を報告 し、生活文化の変化との関係を論じた。
6	民俗資料の保存管 理について	単著	昭和40年 3月	日本民俗学会 「日本民俗学」44	有形民俗文化財の中心としての民具の 保管管理の現状と問題点を指摘した。
7	民具研究と村の職 人の問題	単著	昭和42年 4月	物質文化研究 「物質文化」9	民具の担い手としての村の職人の特質 を、実態調査に基づいて、技術、社会 生活の面から論じた。
8	木地屋、その技術 くらし	単著	昭和43年 3月	日本民族学会 「民族学研究」32-4	従来の木地屋研究にもとづき、技術、 製品、生活変化との相互関係を論じた。
9	文部省史料館所蔵 生活用具の研究 (一)	単著	昭和44年 3月	文部省史料館 「史料館研究紀要」2	史料館所蔵アチック・ミュージアム・コ レクションのうち背負運搬具について の分析結果を報告した。
10	ワラ細工の七つの 手法	単著	昭和45年 3月	河出書房 『民族学からみた日 本』	日本の手仕事を特徴づけるワラ細工の 基礎的技法を明らかにし国外との技術 的系譜関係について論じた。
11	文部省史料館所蔵 生活用具の研究 (二)	単著	昭和45年 3月	「史料館研究紀要」3	史料館所蔵アチック・ミュージアム・コ レクションのうちの運搬具などにつ いての分析結果を報告した。
12	文部省史料館所蔵 生活用具の研究 (三)	単著	昭和46年 3月	「史料館研究紀要」4	所蔵アチック・ミュージアム・コレク ションのうち曲物についての分析結果 についてまとめた。
13	鋤の諸形態	単著	昭和47年 3月	「史料館研究紀要」5	鋤とともに農具として広く用いられて いた鋤について形態、使用法の関係か らあらたに形式分類を行った。
14	民具論への前提	単著	昭和47年 10月	「物質文化」10	民具研究における技術史・技術論的視 点の重要性を実例によって論じた。
15	六つ目の仲間たち	単著	昭和48年 1月	京大人類学会 「季刊人類学」4-1	かご細工の一手法としての六つ目編の 諸型式と系譜関係をを事例に即して分 析した。

16	食器のうつりかわり	単著	昭和48年 1月	(財)農山漁村生活改善 研究会 「食生活」67-6	最近の考古資料発掘をもとにして食器 の変遷を再構成した。
17	踏み鋤の二系列	単著	昭和48年 3月	「史料館研究紀要」6	鋤とともに農具として広く用いられて いた踏み鋤について型式分類し、系譜 関係を論じた。
18	江州鋤について	単著	昭和48年 11月	滋賀民俗学会 「近江の文化」1	琵琶湖南岸地方にのみ分布する江州鋤 とその農法の調査からその特質を指摘 した。
19	隣接部門と人類学 民族学	単著	昭和48年 12月	京大人類学会 「季刊人類学」4-4	日本民族学会シンポジウムの報告の一 部で文化人類学と経済学的方法との傾 向差を論じた。
20	民俗資料と服飾史	単著	昭和49年 1月	服飾文化協会 「服飾文化」141	民俗文化財としての服飾資料の服飾史 への活用について論じた。
21	編み袋の諸形態	単著	昭和49年 3月	「史料館研究紀要」7	編み袋を製作技法の点から分類し、あ らためて系統だてた。
22	結びと人類学	単著	昭和49年 12月	京大人類学会 「季刊人類学」5-2	額田巖博士によって発見された結びの 表示法の成り立ちとその文化人類学的 分析の可能性に言及した。
23	背負梯子の諸形態	単著	昭和50年 3月	「史料館研究紀要」8	従来、多くの問題を残していた背負運 搬具のうち背負梯子について実態調査 によって新たに型式分類した。
24	道具と生活	単著	昭和51年 3月	(財)生活研究所 「生活研究」21	道具の形態と用途の間にはどのような 一般的関係が考えられるかを用具論の 立場から説いた。
25	椀と箸の歴史	単著	昭和51年 3月	平凡社 「別冊太陽」14	新しく出土した考古資料と民具との比 較によって椀と箸の変遷を説いた。
26	シロフミ田下駄の 諸系列	単著	昭和51年 3月	「国立民族学博物館 研究報告」1-1	従来必ずしも明らかにされていなか った田下駄を形態と使用法の両面から 系譜分類した。
27	民俗資料の保存と 管理	単著	昭和51年 7月	「日本民俗学」106	博物館、資料館、郷土館における民具 を中心とした民俗文化財の管理方法上 の問題点について論じた。
28	神宮の神饌土器に ついて	単著	昭和51年 12月	神宮司庁 「瑞垣」110	比較的最近に出土した考古資料をもと にして神宮の祭器の起源を考察した。
29	東北地方タケカゴ 細工の基調	単著	昭和51年 12月	「国立民族学博物館 研究報告」1-4	国立民族学博物館所蔵のカゴ細工の分 析と生産地の再調査にもついで東北 地方のカゴ細工技術の特質と技術変化 について論じた。
30	関東地方タケカゴ 細工の展開	単著	昭和52年 3月	「国立民族学博物館 研究報告」2-1	国立民族学博物館所蔵のカゴ細工の分 析と生産地の再調査にもついで関東 地方のカゴ細工の技術的特質と技術変化 について論じた。
31	中部地方タケカゴ 細工の諸相	単著	昭和52年 6月	「国立民族学博物館 研究報告」2-2	国立民族学博物館所蔵のカゴ細工の分 析と生産地の再調査にもついで中部 地方カゴ細工の技術的特質について論 じた。
32	近畿地方のタケカ ゴ細工	単著	昭和52年 9月	「国立民族学博物館 研究報告」2-3	国立民族学博物館所蔵のカゴ細工の分 析と生産地の再調査にもついで近畿 地方カゴ細工の技術的特質について論 じた。
33	伝統的生活様式と ID	単著	昭和52年 10月	「京都府立大生活文 化センター年報」2	新しい産業デザイン・産業技術と古い 生活様式の係わりを産業構造の変化を 視野に入れて展望した。

34	中国地方タケカゴ細工の一側面	単著	昭和52年12月	「国立民族学博物館研究報告」2-4	国立民族学博物館所蔵のカゴ細工の分析と生産地の再調査にもとづいて中国地方カゴ細工の技術的特質について論じた。
35	なべ・かま・鉄瓶	単著	昭和53年2月	(財)千里文化財団「季刊民族学」3	身近な台所用品としてのなべ、かまを新しく出土した考古資料を参照して変遷を説いた。
36	国立民族学博物館所蔵東南アジア島嶼部採集のカゴ細工	単著	昭和54年3月	「国立民族学博物館研究報告」4-1	日本国内のカゴ細工の技法の分析を基礎にして東南アジア島嶼部のカゴ細工の技法を明らかにした。
37	かごの系譜をたずねて	単著	昭和54年4月	国立民族学博物館「月刊みんぱく」3-4	日本のカゴ細工を東アジア・東南アジア・オセアニア・米大陸のカゴ細工との比較から系譜を考察した。
38	国立民族学博物館所蔵の巻カゴ細工とくに国内資料について	単著	昭和54年6月	「国立民族学博物館研究報告」4-1 「国立民族学博物館研究報告」4-2	世界各地に分布する巻カゴ作りの体系を日本のカゴ細工に適用し特質を論じた。
39	モースと日本民具	単著	昭和54年7月	日本人類学会「人類学雑誌」87巻3号	日本人類学の創始者の一人、エドワード・モース博士の日本滞在中の記録のうち、生活用具関係の記事を検討して同記事が民具研究上注目すべきものであることを論じた。
40	国立民族学博物館所蔵の曲物細工について	単著	昭和54年12月	「国立民族学博物館研究報告」4-4	木工技術の一方法としての曲物細工を日本のみならず国外各地との比較によって体系づけた。
41	背中あての諸形態	単著	昭和56年3月	「国立民族学博物館研究報告」6-1	ワラ製の運搬具としての背中あてを、ワラ細工の技法をもとにして再整理し、系統を論じた。
42	デザインの外側	単著	昭和56年6月	衣生活研究会「衣生活研究」8-3・4	デザインの外部条件とは何か、産業デザインと文化人類学の研究が如何に係わりあうかを論じた。
43	技術と文化	単著	昭和56年8月	旺文社『文化人類学』	放送大学のテキストの一冊として執筆。技術と文化との結びつきを具体例によって考察した。
44	アチック・ミュージアムの足どり	単著	昭和58年9月	「国立民族学博物館研究報告」8-3	渋沢敬三によって設立されたアチック・ミュージアムとそのコレクションを電算機によって体系化し、収集の発展過程を明らかにした。
45	アチック民具研究の道すじ	単著	昭和58年12月	「国立民族学博物館研究報告」8-4	アチック・ミュージアムのコレクションを電算機によって体系化し収集の発展と研究の発達との関係を明らかにした。
46	アチック・ミュージアムのあとに	単著	昭和59年3月	「国立民族学博物館研究報告」9-1	アチック・ミュージアムの学統をうけついで日本民族学協会附属博物館の発展を電算機によって体系化し、現在の研究状況と対比考察した。
47	川と湖の漁具	単著	昭和59年7月	群馬県立博物館「18回企画展図録漁具、漁の知恵」	最近調査が進みつつある日本在来の漁具を魚類の系統を参考にして区分し技術文化との関係を論じた。
48	日本在来技術文化の再評価	単著	昭和60年3月	国立民族学博物館「民博通信」28	高度経済成長の中で在来の技術文化は、どのように生かされ、失われたか。民博シンポジウムの報告の概要。
49	民具研究の展開1960年以後	単著	昭和60年3月	「国立民族学博物館研究報告」10-4	戦後の民具研究の発展を地域文化の発掘、文化行政、地方行政の変化との関連から再検討した。

50	民具研究の現状と展開	単著	昭和60年7月	国立民族学博物館「民博通信」29	国立民族学博物館国内資料調査会における公開講演の要旨。高度経済成長と文化行政、民具研究の発達の関係を述べた。
51	在来技術文化と地域文化の均質性	単著	平成元年3月	九学会連合「人類科学」41集	九学会連合による共同研究「地域文化の均質化」の一環としておこなわれた調査の報告で、埼玉県秩父地方における技術と用具にみる地域内地域化と一般化傾向について、その社会経済的発展との関係を論じた。
52	ことばと文化「分類アイヌ語辞典」を読む	単著	平成14年3月	明海大学大学院応用言語学研究科紀要応用言語学研究No.4 19-23	
Ⅲ. その他					
1	浅川地域の民俗	共著	昭和37年3月	東京都教育委員会「東京都文化財調査報告書」12号	(著者) 宮本馨太郎、亀山俊一、西垣晴次、本多耕治、桑野学美、中村俊亀智 (概要) 都が昭和36年実施した浅川地域の衣食住、民間信仰など民俗文化財調査の報告書。住居・民具の章11頁を担当。
2	高倉について	単独	昭和37年5月	日本民族学会第1回研究大会	日本民族学協会附属博物館に建てられた奄美諸島の穀倉、高倉の建築過程を述べ、その構法について報告した
3	荏原地域の民俗	共著	昭和38年3月	東京都教育委員会「東京都荏原地域文化財総合調査報告書」	(著者) 宮本馨太郎、亀山慶一、西垣晴次、宮本瑞夫、中村学美、中村俊亀智 (概要) 都市化がいちじるしい東京荏原地域の生活文化と民俗文化財調査の報告書。住居・生産技術など19頁を担当。
4	北多摩南部地区の民俗	共著	昭和41年3月	東京都教育委員会「東京都文化財調査報告書」18号	(著者) 宮本馨太郎、亀山慶一、西垣晴次、田畑勉、西田紘子、中村俊亀智 (概要) 都が実施した北多摩南部地域文化財調査の一部。衣食住、民間信仰等民俗文化財調査の報告書。住居・技術など22頁を担当。
5	巻ワラ細工について	単独	昭和41年10月	日本民族学会人類学会第2回連合大会	日本の巻ワラ細工の事例と周囲諸地域の同系技術を対比し系譜関係を指摘した。
6	吉川金治「日本の鋸」(自費出版)	単著	昭和42年6月	日本民族学会「民族学研究」32巻1号	出土品、絵巻物等による日本の鋸の復原的研究にかんする吉川金治氏の先駆的研究を紹介した。
7	南西諸島のカゴ細工	単独	昭和44年5月	日本民族学会第8回研究大会	南西諸島のカゴ細工を製作技術の点から分類し、周囲のカゴ細工と対比し、その系統的重要性を報告した。
8	額田巖「ものと人間の文化史、包み」(法政大学出版局)	単著	昭和52年6月	「朝日ジャーナル」6月17日号	結びや包みを情報工学の方法によって分析した概論書の紹介で、生活用具に対する新視点を中心に述べた。
9	橋本鉄男「ものと人間の文化史31、ろくろ」(法政大学出版局)	単著	昭和54年9月	日本民族学会「民族学研究」44巻2号	ひさしく木地師の研究にたずさわられた橋本鉄男氏のろくろに関する概観的著書を紹介し、今後の課題点を指摘した。

10	加藤九祚「中央アジア遺跡の旅」(NHK)	単著	昭和54年11月	国立民族学博物館「民博通信」6号	中央アジアにおける最近の発掘を紹介した加藤博士の著書の紹介。本書の持つ仏教文化の波及等についての問題点を指摘した。
11	正月と日本人	単著	昭和63年2月	メディカルフレンド社「医療」4巻2号	江戸時代の江戸と東北地方や南西諸島など農村の正月行事を対比し正月行事の重層性、多様性について述べ、系譜的相違を示唆した。
12	西日本の鋤をたずねて	単著	昭和63年9月	パン、リサーチ、インステイテュートK.K. 梅棹忠夫編「異文化との出会い」	西日本現行の鋤について形態的一致と用法のバリエーションとの関係を指摘し、形態的起源、二期作農法との関係についても言及した。
13	民具回想(13回)	単著	平成15年～平成19年	広報誌「げんりゅう」源流社20巻1号～23巻1号	

表2

	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
I. 著書					
1	「法人類学入門」	共著	昭和49年10月	弘文堂 千葉正士編	(訳者) (概要) 法学博士千葉正士教授が編集した欧米の法人類学者の論文集 (担当) 収録論文のうち以下の三編を中村が翻訳。ポール・ボナハン「法と犯罪の人類学的研究」ロイ・F. パートン「イフガオ法の法源」A.R. ラドクリフブラウン「未開法」
2	Frank Tripett, The First Horse-men, Time-Life Books New York, 1974 フランク・トリペット著 「騎馬民族の出現」タイム・ライフブック(ニューヨーク) 1974	単著	昭和52年12月	タイム・ライフ ブックス刊	紀元前1000年紀、ユーラシアステップに出現した騎馬遊牧民の文化伝統をスキュタイを経てモンゴル・カザフ族に至るまで最新の民族・考古学的知見を踏まえて生きいきと描きだした平易ではあるが水準の高い概説書
3	「文化人類学の視角－伝統と現代」	共著	昭和56年5月	犀書房 高橋統一編	(著者) 高橋統一、中村孚美、清水浩昭、大岩碩、森部一、芳賀正明、松本誠一 (概要) 文化人類学のテキスト 大学専門・教養課程の教科書としてつくられた文化人類学の概論書。とくに文化人類学における新しい研究領域を重視した。 (担当) II-4-2 法と政治133-153、III-10都市人類学321-340を担当
4	Simon Roberts, Order and Dispute - An Introduction to Leagal Anthropology 1979. サイモン・ロバーツ著 秩序と紛争－人類学的考察－	共著	昭和57年12月	千葉正士監訳	(訳者) (概要) ロンドン大学法学部教授サイモン・ロバーツによる法人類学の概説書。 (担当) 第八章「国家のある社会では」183-206の翻訳を担当。
5	「現代の人類学2「都市人類学」	共著	昭和59年1月	至文堂 中村孚美編著 7-26	(著者) 中村孚美、小川英雄、可児弘明、黒田悦子、棚橋訓、宮地美江子、和崎春日、小林忠雄、額田巖 (概要) 文化人類学の最新の研究分野の一つである「都市人類学」登場の社会文化的背景、主要な研究課題・視角について論じ、更に古代オリエントの都市及びシンガポール、サンタフェ、チェニスなど現在の諸都市に関する個別研究を収録した。 (担当) 巻頭の概論的部分をなす「都市人類学の展望」7-26(都市人類学登場の背景と研究課題と視角を論述)、フンパン、金沢などについての個別研究を収録する。

6	E.Adamson Hoebel, The Law of Primitive Man: A Study in Comparative Legal Dynamics. Cambridge Mass. Harvard University Press 1954. E.A.ホーベル著「法人類学の基礎理論－未開人の法－」ハーバード大学出版会1954	共訳	昭和59年10月	弘文堂	(訳者) 千葉正士、中村孚美 (概要) 現代法人類学に一期を画したE.A.ホーベル教授の名著で、法を中心にした民族誌ともなっている「未開人の法」の完訳。 (担当) 第二部未開法習俗、ポール・ボナハン「法と犯罪の人類学的研究」45-61、ロイ・F・バートン「イフガオ法の法源」65-72、A.R.ラドクリフ・ブラウン「未開法」171-180を担当。
7	日本人の心をさぐる	単著	昭和61年7月	「日本人はどこからきたかシリーズ」 福武書店	
II. 学術論文					
1	杖突峠西麓地域のデイリゾメ	単著	昭和35年5月	「信濃」(信濃史学会機関誌) 12巻5号、301-306	長野県上伊那郡の一山村における婚姻慣行について論じた。
2	親と仲人－杖突峠西麓地域の事例によって－	単著	昭和35年12月	「日本民俗学」(日本民俗学会機関誌) 15号	長野県上伊那郡の一山村における婚姻慣行と社会組織関係について論じた。
3	木地屋管見－技術的民族誌への一つの試み	共著	昭和36年3月	「民族学研究」25巻1・2号、56-63	(著者) 中村たかを、桑野孚美 (概要) 実態調査に基づき、木曾の木地屋の生活様式と技術について論ずる。 (担当) 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能。
4	ユーゴスラヴィアの大家族共同体(ザドルーガ)について	単著	昭和38年	「社会人類学研究会報」第2号(東京都立大学社会人類学研究室)、34-42	大家族共同体と規定されてきたザドルーガについて、現地の学者の新しい調査・研究報告を踏まえながら、その特性を再検討した。
5	《torol》について	単著	昭和40年10月	「北アジア民族学論集」(北アジア民族学研究会編) 第1集、59-67	モンゴル族の古典、今世紀前半の調査報告書に《torol》(トルル)と呼ばれる父系親族カテゴリーについて見いだした事。一部のモンゴル語の古典文献や人類学者の報告書などにみられるが、従来我が国の研究者によってあまり重視されなかった“トルル”と呼ばれるモンゴルの親族カテゴリーの意味についてその社会構造上の重要性について論じる。
6	モンゴル親族組織覚書	単著	昭和42年9月	「民族学研究」32巻2号(日本民族学会機関誌)、97-108	モンゴル親族構造の社会人類学的分析モンゴル族の古典および内外の人類学者、法学者、東洋学者の著書に表れる報告。モンゴル族の組織あるいは親族カテゴリーの資料を集成し比較分析し、モンゴルにおける父子親族の構造的性質を論じた。古くは独逸の民族学者(たとえばW.シュミット)などにより、またわが国の東洋史学により注目されるモンゴルの親族構造を第二次世界大戦後の社会人類学的研究報告を踏まえながら、その性質を論じた。

7	ダゴール族における祖先崇拜とシャーマニズム	単著	昭和43年12月	「社」2巻4号(東京都立大学社会人類学研究室)、86-90	モンゴル系ダゴール族における祖霊観とシャーマニズムの実態について親族社会構造との関連において論じた。
8	町と祭り-秋田県角館町の飾山囃子の場合-	単著	昭和46年9月	「日本民俗学」(日本民俗学会機関誌)77号、33-53	秋田県角館町の飾山囃子の実態調査により作られたデータを分析し、「町」の祭りの特質を考察する。
9	都市と祭り-川越祭りをめぐって-	単著	昭和47年7月	社会思想社「古野清人教授古稀記念論文集・現代諸民族の宗居と文化」、353-384	江戸の祭りの古形態を残すといわれる川越祭りの構成とプロセスを調査・分析した。小江戸と呼ばれた川越の都市の祭りの特質について論じた。
10	秩父祭り-都市の祭の社会人類学-	単著	昭和47年10月	講談社「季刊人類学」(京都大学人類学研究会編)3巻4号、149-192	実態調査にもとづく秩父祭りの構成とプロセスの分析をすることにより、秩父の在郷町としての特性を示すとともに、祭りが町の指導者と村芝居のおひろめイニシエーションの場ともなっていることを論じた。
11	都市人類学の課題-サハラ以南のアフリカ都市の研究から-	単著	昭和49年3月	「民族学研究」38巻3・4号、314-322	第二次世界大戦後世界的に進行した工業化と都市化に伴って登場してきた「都市人類学」につき、アフリカの事例をとりあげながら、この人類学の諸分野における研究の視角、課題、方法などについて論じた。
12	都市の概念-その総合的検討のために-各論5、人類学	単著	昭和49年10月	「都市研究報告」(東京都立大学都市研究組織委員会編)46、5-32	人類学者による都市論を紹介しながら、これまで人類学者は都市をどのようなものとして捉えてきたかを検討した。
13	法と慣習	単著	昭和52年12月	ぎょうせい、「文化人類学事典」、89-94	89-94頁
14	ノマディズムと社会構造-故後藤富男教授の内陸アジア遊牧民社会の研究について-	単著	昭和53年1月	「日本モンゴロ学会報」第9号、2-5	後藤教授の内陸アジア遊牧民社会の研究を欧米人類学者による新しい社会人類学的研究と比較しながら問題点の再検討を試みた。
15	都市人類学と都市の民俗学	単著	昭和53年3月	「大塚民俗学」(大塚民俗学会機関誌)、7-12	都市人類学が開拓してきた都市研究の手法を紹介しながら、民俗学における都市研究の可能性を論じた。
16	博多祇園山笠-そのダイナミクスとアーバニズム	単著	昭和61年1月	第一書房「社会人類学の諸問題-馬淵東一先生古稀記念論文集」、161-185	「博多山笠(博多総鎮守櫛田神社の祭礼)」につき、参与観察、祭りへの参画の仕方を詳細に記録し、都市人類学的観点からの調査。人々の参加の仕方、山笠の動かし方を詳細に調査し、祭りを通して表現される博多的アーバニズム(都市的生活様式)、生活の美意識、アイデンティティ・シンボルとしての祭りの意義について論じた。農村民俗学を越えた都市人類学的研究
17	法人類学	単著	昭和61年3月	弘文堂「日本の民族学1964-1983」(日本民族学会編)、9-13	

18	L.H.モーガンとイロクォイリーグー民族学史覚書(一)ー	単著	昭和61年5月	「史学」(三田史学会機関誌) 55巻4号	従来、我が国ではほとんど取上げられることのなかったモーガンの代表的著作の一つである「イロクォイリーグ League of the Iroquois」(イロクォイ族に関する民族誌)の内容を紹介再検討し、モーガンの民族学(人類学)の構想・体系について論じた。
19	フランツ・ボアズとクワキウトル民族誌ー民族学史覚書ー	単著	平成1年6月	新人物往来社「考古学の世界」(慶應義塾大学民族学考古学研究室編)	民族学史上よく知られたフランツ・ボアズであるが、研究実績についてはあまり知られていない。Kwakiutl Ethnography を主にとりあげ、その実証的学風を論じた。
Ⅲ. その他					
1	「東京都文化財調査報告12浅川流域の民俗」	共著	昭和37年3月	東京都教育委員会	(著者) (概要) 浅川流域の民俗調査報告 (担当) 「服飾と食事」の項目を担当執筆した。
2	「荏原地域文化財総合報告」	共著	昭和38年3月	東京都教育委員会	(著者) (概要) 荏原地域の民俗調査報告 (担当) 「服飾・食事」の調査・報告書を執筆。
3	(書評) H. F. SCHURMAN, The Mongols of Afganistan-An Ethnography of the Monghols and Related Peoples of Afganistan-1962's-Graven hage	単著	昭和38年	「社会人類学研究会報」第2号 東京都立大学社会人類学研究室、42-43	アフガニスタンに残されたモンゴル系モゴール族と周辺諸族の民族誌につき内容を紹介し問題点を指摘する。
4	(書評) 千種達夫「満洲家族制度の慣習 I・II」1964-1965 一粒社刊	単著	昭和40年6月	「東京都立大学法学会雑誌」、111-119	千種教授が第二次世界大戦中に中国東北地区で行ったモンゴル系住民の家族制度調査の紹介。戦後米国社会人類学者によって注目されたモンゴル親族構造の基本概念的Torolがつとに千種教授によって取上げられていたことを明らかにした。
5	(書評) Lawrence KRADER, Social Organization of Mongol Turkic Pastral Nomads. Indiana University Publications, Uralic Altaic Series, Vol.19 1963	単著	昭和41年6月	「民族学研究」31巻1号、77-79	L. KRADER教授のユーラシア遊牧民社会構造論の紹介と若干の問題点を指摘。
6	「日本民族学の回顧と展望」内陸アジア	共著	昭和41年12月	「日本民族学の回顧と展望」日本民族学会編	江上波夫と共著
7	(書評) Leopold Pospisil Anthropology of Law, A Comparative Theory, 1971 New York L.ポスピシル「法人類学ー比較理論ー」	単著	昭和47年11月	「法律時報」44巻13号、130-131,135	法の通文化的研究のために、分析的な法概念を提唱したポスピシル(イェール大学教授)の学説の紹介と位置づけを行った。
8	伝統の祭りと都市	単著	昭和50年11月	「首都圏総合計画研究所月報」18号、1-3	都市の伝統的な祭りがもつ諸要素と、その意義。

9	文化人類学における都市研究の可能性	单著	昭和54年 2月	「季刊人類学」 (京都大学人類学研究会編)	第17回日本民族学会研究大会シンポジウムにおける筆者のコメント
10	祭りの魅力－都市と祭り と地域社会－	单著	昭和54年 4月	「三多摩の社会教育」45号（東京都立川社会教育会館館報）、 11-13	社会教育からみた祭りの意義。
11	都市空間における風俗と 民俗（座談会：宮田登・ 幡野豊次郎/中村学美	单著	昭和55年 5月	「風俗」（日本風俗史学会会誌） 18巻3・4号、69-96	祭りを中心にして都市空間における 風俗と民俗を考察。
12	日本の都市の祭り（座談 会：米山俊直・高取正男・ 松平誠・森田三郎/中村 学美	单著	昭和56年 12月	「季刊人類学」 11巻4号、127-181	文化人類学および隣接科学の専門家 による「日本の都市の祭り」に関する 総合的討論。
13	都市の民俗－城下町を中 心に－	单著	昭和56年 4月	「日本民俗学」 134号、28-31	第32回日本民俗学会年会シンポジウ ムにおける筆者のコメント。
14	最後のジェネラリスト	单著	昭和58年	「三田評論」（研 究余滴）	人類学者アルフレッド・クローバー の一側面を描いた。
15	都市の祭り（座談会：宮 家準・平岡好和・園田稔 /中村学美	单著	昭和60年 10月	「三田評論」10 月号、4-18	遊びとしての都市の祭りに関する宗 教学者、人類学者による討論。
16	民族学考古学の基本文献	单著	昭和62年 3月	「三色旗」468号	
17	歴史を学ぶ楽しさ（座談 会：米田治・可見弘明・ 坂井達朗・七字慶紀/中 村学美）	单著	昭和62年 6月	「三色旗」471号	

表3

	元箱に記された 記号	内 容	備 考	記入日
1	中村B1-1	1970年9月5,6日～9月27,28日 No.1～4・1971年9月18日～9月20日No.12～16 穂高お船祭り	中村B1・1階 孚美書斎	13.11.7
1	中村B1-2	1970年10月13日～10月16,17日No.5～9 川越祭り		13.11.7
1	中村B1-3	1971年8月28日No.10,11 秩父虫干し・1971年12月1日No.17～20 秩父屋台立・1971年12月2日～12月4日No.21～30 秩父お祭り		13.11.7
1	中村B1-4	1972年5月9,10日～5月16日No.30～40 大垣祭り		13.11.7
1	中村B1-5	フランツ・ボアズに関するノート		13.11.7
1	中村B1-6	1969年8月犬山市内 1971年千葉秩父加曾利貝塚 1961年11月30日～12月4日秩父No.66～71 1971年7月4日～7月15日博多山笠No.76～84 1974年6月30日～7月8日博多祇園山笠No.47～56		13.11.7
1	中村B1-7	中村孚美ウラジミルツオフのノート (B6判カード)		13.11.7
1	中村B1-8	中村孚美1973年松本諏訪No.41 1974年7月31日～8月1日諏訪秋宮お舟祭りNo.42～44 1972年10月川越祭りNo.45 1973年12月20日新庄No.46 1974年7月4日～7月15日博多祇園山笠No.54～64 1975年1月26日 野の宮仁私寺No.65 1975年高岡与四兵衛祭りNo.66 1975年4月30日～5月1日高岡御車山No.67～73 1975年5月3日博多松ばやしNo.73～75 1974年9月28日～10月10日大津祭りNo.85～92 1975年10月6日No.74・75		13.11.7
1	中村B1-9	ビジネスダイアリー 1964～1972年		13.11.13
1	中村B1-10	写真 1972年大垣、1971年、1972年、1975年		13.11.13
1	中村B1-11	モンゴルに関するカード (マルゼンカード)		13.11.13
1	中村B1-12	蒙古・満州・中国雑記 東欧諸文献 Zadruga その他 研究ノート		13.11.13
1	中村B1-13	領収書		13.11.13
2	中村B2-1	浮田家 写真スライドアルバム	中村B2・1階 孚美書斎	13.11.5
2	中村B2-2	G.Hモーガンとイロクォイ・リーグ (史学51巻4号) 手書き原稿		13.11.5
2	中村B2-3	写真未整理 (桑野孚美資料) ・写真アルバム (山形県丹波山村写真 山形県上ノ山市 北海道)		13.11.5
2	中村B2-4	・中村孚美 高岡御車山祭資料 手書き ・日本民俗学会談話会資料 はがき (昭和53年)		13.11.5
2	中村B2-5	フィールドノート (木曾、鬼次、戸隠、村山他 島田今市)		13.11.5
2	中村B2-6	曳山祭り (高岡市史) 資料		13.11.5
2	中村B2-7	・伝統的生活様式とID 抜刷り (生活文化研究会) 第2回京都府立大学 生活文化センター研究発表会講演要旨 ・都市人類学の課題 抜刷り×四 ・高倉 (第1回研究大会) 抜刷り (民俗学研究29巻2号) ・アチック民具研究の道すじ 抜刷り (国立民族学博物館研究報告 8巻4号) ・グリーンレター (1989/10) 雑誌 ・講座資料 世相解体学 (1998/2/18) FAX		13.11.5
2	中村B2-8	・縄文丸木舟覚え書 抜き刷り (東洋大学アジア文化研究所 「研究年報」 39号 2005/2) ・季刊人類学 3-4 抜き刷り (1972 講談社刊) ・文化人類学の視角 抜き刷り		13.11.5

2	中村B2-9	中村俊亀智 研究業績リストスクラップブック 論文、小文、短文		13.11.5
2	中村B2-10	中村俊亀智 研究業績リストスクラップブック 年表		13.11.5
2	中村B2-11	授業用テキスト・ANTHROPOLOGY I・ ANTHROPOLOGY II		13.11.5
2	中村B2-12	中村孚美写真アルバム		13.11.5
2	中村B2-13	中村孚美ユーゴスラビア旅行スライド1988.7.30- 8.2		13.11.5
3	中村B3-1	博物館概論 本 校正メモ		13.11.5
3	中村B3-2	・住まい関係メモ ・住まい関係新聞コピー		13.11.5
3	中村B3-3	・1989no.43民博通信 本 ・「結び」と人類学 抜刷り×2 ・踏み鋤の二系列 抜刷り×2 ・編み袋の諸形態 用具論的に抜刷り（昭和49 年3月 資料館紀要第7号） ・内省的用具論の展 開 抜刷り（雑誌「信濃」第42巻9号通巻489号 平成2年9月1日） ・文部省史料館所蔵生活用具 の研究（一）抜刷り（昭和44年3月 史料館研究 紀要第2号） ・文部省史料館所蔵生活用具の研 究（二）抜刷り（昭和44年3月 史料館研究紀要 第3号）	中村B3・1階 孚美書 齋	13.11.5
3	中村B3-4	・音楽関係メモ ・音楽関係コピー		13.11.5
3	中村B3-5	カレンダー 書き込みあり		13.11.5
4	①-1	博多山笠 資料		13.11.13
4	①-2	博多山笠 資料		13.11.13
4	①-3	博多山笠 資料		13.11.13
4	①-4	博多山笠 資料		13.11.13
4	①-5	高岡 資料		13.11.13
4	①-6	三社祭り 資料		13.11.13
4	①-7	佐賀県唐津市パンフレット 日本の老舗66パン フレット		13.11.13
4	①-8	都市の祭り メモ	1 F 和室（孚美書齋）	13.11.13
4	①-9	「やまのうつりかわり」 祝 宮静	東側本棚3段目	13.11.13
4	①-10	祇園御霊会 その他		13.11.13
4	①-11	馬淵教授講義ノート		13.11.13
4	①-12	82三田史学会 資料		13.11.13
4	①-13	A.L Kroeber Life History		13.11.13
4	①-14	熊本出張のしおり パンフレット		13.11.13
4	①-15	24.12. 1 孚美先生 1 F 和室本棚 2 段目		13.11.13
4	①-16	c u l t u r e - a r e a		13.11.13
4	①-17	社会人類学から見たモンゴル モンゴル研究		13.11.13
5	②-1	法人類学・政治 法人類学・法・政治		13.11.14
5	②-2	テスト問題		13.11.14
5	②-3	民族学特殊1983 or 1984		13.11.14
5	②-4	手紙・その他・雑		13.11.14
5	②-5	地域神社と氏子圏 その他（祭り）千葉正士	1 F 和室（孚美書齋）	13.11.14
5	②-6	日本民族学会50周年記念事業 回顧と展望 寄 付	東側本棚3段目	13.11.14
5	②-7	都市人類学 1975 講義ノート		13.11.14
5	②-8	都市人類学ノート		13.11.14
5	②-9	山笠行事の手順		13.11.14

5	②-10	・都市人類学(比較人類学)・都市人類学の展開'83・都市人類学ノート'86		13.11.14	
5	②-11	モンゴル語文法		13.11.14	
5	②-12	社会人類学より見たモンゴル		13.11.14	
5	②-13	遊牧民文化の起源論		13.11.14	
5	②-14	ZADRUGA その他		13.11.14	
5	②-15	・Boas		13.11.14	
6	③-1	モンゴル(1) H2モンゴル紀行、モンゴル研究No13、モンゴル研究No16、内陸アジア史研究No17、東洋史特講、チンギス汗帝国、Sebei族の法について、モンゴルノート、モンゴル学会講演、北方ユーラシア法文化圏		13.12. 6	
6	③-2	モンゴル(2) BASIC COURSE IN MONGOLIAN 73号、ALTAN TOBCI、CONCEPTIONS OF STATE AND KINGSHIP IN SOUTHEAST ASIA 18号、National Museum of Ethnology、文化人類学学史、日本モンゴル学会63年度春期レジュメ		13.12. 6	
6	③-3	モンゴル(3) 日本モンゴル学会の活動、酸乳のふるさとを尋ねて		13.12. 6	
6	③-4	研究ノート(1) 民族学・考古学研究法84'、民族学・考古学研究法85'、Houses And House-Life of American Aboriginis、生業の人類学、Marshall D.SAHLINS		13.12. 7	
6	③-5	研究ノート(2) League of the Iroquois、The Structure of Culture、Frans Boas と Northwest Coast、Eggan、Morganの論文ファイル	14/14学美写真講義ノートなど。1F和室B(学美書齋)東側本棚の2段目	13.12.12	
6	③-6	原典購読82'、文化人類学84'、ホーベル研究、都市研究について、kwakiutl Ethnography、フリードゥル文化人類学、The Origin of the State1988		13.12.12	
6	③-7	研究ノート(4) アフリカの都市化		13.12.12	
6	③-8	ユーゴスラビア、ザグレブ学会資料、Lewis Henry Morganについて、AN ETHNO-ATLAS、DIRECTORY(参加者名簿)、ザグレブ紀行(2)		13.12.12	
6	③-9	授業関係 文化人類学ゼミレポート「三社祭」S52、民族学特殊(1984年)、長崎獅子舞について、レジュメ、出席表		13.12.12	
6	③-10	雑資料 研究費領収書、昭和60年 日本民族学会資料 芸術文化振興基金No.1.2(1990年)、メモ帳、ファイル、古代文学の世界、魚菜文庫目録		13.12.12	
6	③-11	雑資料②		13.12.12	
6	③-12	趣味 和服・ハワビ京都きもの学院資料3冊(学習帳、問題集、雑誌)、スクラップブック		13.12.12	
7	④-1	民族学慶応57			13.11.28
7	④-2	モンゴル関係資料			13.11.28
7	④-3	都市の祭り			13.11.28
7	④-4	社会学	1F和室B(学美書齋)東側 学美写真講義ノートなど 東側本棚in下のトビラ内	13.11.28	
7	④-5	手紙・その他		13.11.28	
7	④-6	民族政策論		13.11.28	
7	④-7	文化人類学'81以前		13.11.28	
7	④-8	イロクォイリーグ		13.11.28	
7	④-9	家計簿'48-		13.11.28	

8	⑤-1	Xanxa Dmupym 1・2	1F和室B (学美書齋) 東側本棚下のトビラ内	13.11.14
8	⑤-2	家族法判例集成		13.11.14
8	⑤-3	krader		13.11.14
8	⑤-4	League of the Iroquois 図表		13.11.14
8	⑤-5	・ 内蒙古諸部落の起源 ・ 蒙古人民共和國憲法 ・ 遊牧民の社会 (モノグラフ) ・ 成語故事		13.11.14
8	⑤-6	sib, clan, lineage HVEBNER Lowie Fonte		13.11.14
8	⑤-7	家族・親族構造論		13.11.14
8	⑤-8	博多山笠資料		13.11.14
8	⑤-9	博多山笠資料・戦後復興史・その他		13.11.14
8	⑤-10	松山遺事		13.11.14
8	⑤-11	博多山笠資料その2		13.11.14
8	⑤-12	博多山笠		13.11.14
8	⑤-13	西洋中世の法と国家 世良晃志郎 教授 1967 年11月9・16日		13.11.14
8	⑤-14	Shamanism		13.11.14
8	⑤-15	法社会学		13.11.14
8	⑤-16	長崎の獅子舞		13.11.14
8	⑤-17	『思想』 1985		13.11.14
8	⑤-18	都市人類学文献		13.11.14
8	⑤-19	手紙		13.11.14
8	⑤-20	ノート・プリント類		13.11.14
9	⑦-1	木箱 (手紙in) 下のカードケース 24.12.1	9-1 1F和室 (学美書齋) 南側学美先生 1引き出し2東側本棚 inフィールドワーク ノート①②in	13.11.28
9	⑦-2	引き出し 24.12.1 用紙7段目		13.11.28
9	⑦-3	引き出し 24.12.1 南窓 博多山笠下書き 1 段		13.11.28
9	⑦-4	引き出し 24.12.1 原稿用紙 4段目		13.11.28
9	⑦-5	引き出し 24.12.1 原稿用紙 6段目 (原稿用 紙手紙) ルーズリース		13.11.28
9	⑦-6	引き出し 24.12.1 退官教授の会 南窓 2段目		13.11.28
9	⑦-7	引き出し 24.12.1 訳語集 2段目		13.11.28
9	⑦-8	引き出し 24.12.1 履歴書 南窓1段目 教育 研究業績書		13.11.28
9	⑦-9	引き出し 24.12.1 原稿用紙 3段目		13.11.28
9	⑦-10	24.12.1 南窓際 木箱に入った手紙		13.11.28
9	⑦-11	24.12.1 引き出し 6段目		13.11.28
9	⑦-12	24.12.1 引き出し 研究メモ 7段目		13.11.28
9	⑦-13	24.12.1 引き出し 3段目 F.別刷		13.11.28
9	⑦-14	24.12.1 引き出し 三田史学会 4段目		13.11.28
9	⑦-15	24.12.1 引き出し 5段目 F.小文		13.11.28
9	⑦-16	24.12.1 引き出し 6段目		13.11.28
9	⑦-17	24.12.1 引き出し マヌ法典の文字 7段目		13.11.28
9	⑦-18	24.12.1 引き出し 2段目		13.11.28
9	⑦-19	24.12.1 引き出し 写真 3段目		13.11.28
9	⑦-20	24.12.1 引き出し 4段目		13.11.28
9	⑦-21	24.12.1 引き出し 5段目 国際人類学民族学 連合会議		13.11.28
9	⑦-22	①学美先生 フィールドノート 24.12.1 和室・東 側・小棚in		9-2 1F和室 (学美書齋) 南側学美先生-2 続き

9	⑦-23	②学美先生 フィールドノート 24.12.1 和室・東側・小棚in		13.11.28
10	2/14 2階 講義 ノート写真1	抜刷集 (1)~(7)	2/14 2階 (たかを書齋) 講義ノート 写真	13.12. 5
10	2/14 2階 講義 ノート写真2	財団法人日本民族学協会附属民族学博物館・講演記録等・SUKI, KUWA/民協博概要/民具研究の回顧と展望/AMの足どり,AMの後に、道筋・祭魚洞雑録・技術の歴史、社会、採集、建築		13.12. 5
10	2/14 2階 講義 ノート写真3	杖突 (道路、桶、木鉢、水車、すまい、鋏)/信州鎌・器、鉢、壺、甕、曲物・用語・HOKKAIDO HOUSING・皆野町農山村具展示館 (2)・小文うつし・文献コピー		13.12. 5
10	2/14 2階 講義 ノート写真4	抜刷集 (日本の民具以前、日本の民具以後、雑)		13.12. 5
10	2/14 2階 講義 ノート写真5	中村学美の日記'91		13.12. 5
10	2/14 2階 講義 ノート写真6	文部省史料館報 補訂用		13.12. 5
10	2/14 2階 講義 ノート写真7	SCRAP BOOK (フォト資料集①、雑)		13.12. 5
10	2/14 2階 講義 ノート写真8	DRAWING BLOCK (1. Tsuetsukiのすまい1960、2、3、4. Awara&Otari 61-4-12~61-4-16、冬 津軽、Album個人用)		13.12. 5
10	2/14 2階 講義 ノート写真9	生活民具論 (1)~(3)		13.12. 5
11	5/14学美写真たかをカード1	・御殿場市川柳高村博氏フィールドノート ・高遠町三義村フィールドノート ・地図 ・仙台青葉城 ・岩出山写真 ・籠写真 ・籠カード ・上総千葉長野米農業試験場フィールドノート ・諏訪市立美術館フィールドノート ・開田六日町フィールドノート ・道志羽白鳥三峯大滝フィールドノート ・高岡沼津久連フィールドノート ・久慈竹細工 青森吉岡さん 高畠米田さん佐藤信之助さん兼子帛雄さん豊根村石田総運さん清川朋納さんフィールドノート ・①新三当農業試験所②騎西の笙③三浦三軒屋の梯子④秩父市寺尾の柄⑤群馬県立博物館フィールドノート ・皆野周布秩父の竹縄フィールドノート	5/14 2階 (たかを書齋) 学美写真たかをカード	13.11.27
11	5/14学美写真たかをカード2	角館 アルバム		13.11.27
11	5/14学美写真たかをカード3	大垣祭り アルバム		13.11.27
11	5/14学美写真たかをカード4	穂高お船まつり アルバム		13.11.27
11	5/14学美写真たかをカード5	秩父冬祭りII 1971,12		13.11.27
11	5/14学美写真たかをカード6	・民具採集カード (東京都青梅市) ・たかをDiary 1975年、76年、80年、81年、82年、83年、84年 ・メモ 玩具の事、車の事、紡績の事 ・地図 伊万里、唐津、瀬戸、早岐 ・フィールドノート 比企小川 勝沼 葡萄酒		13.11.27



12	6/14 孚美写真 たかをカード窓下 10	・講演メモ他 ・京大古典研84' ・京大85 ・ 採集民文化 ・用語 ・うめぐさ ・kazakh族 ・samoa島 ・Hopi族 ・Haida族 ・Inuit 族 ・Tasmanian ・Semang族 ・日文化人類 学、民族学 ・構造主義他 ・独 ethnologie ・ Wien ・W.schmiat ・Culture & personality ・R.BENEDKT ・米 cultural Anthropology ・L.H.MORGAN ・ホグビンの調査 ・ MALINOWSKI ・James Frazer ・英 anthropology ・Edward Tylor ・MAIKAI ・ 文化人類学 ・文化人類学 ・Anthropology ・ 序日本事情 ・日本事情91 ・社会学特論V ・ 社会学特講V ・比較文化論 ・比較文化論		13.11.21
13	9/14 孚美写真 中村ノート書 棚1	たかを ・ANTHROPOLOGY ・ANTHROPOLOGY IN Kyoto ・ANTHROPOLOGY IN OSAKA		13.11.21
13	9/14 孚美写真 中村ノート書 棚2	鋤 たかを		13.11.21
13	9/14 孚美写真 中村ノート書 棚3	近代建築史 たかを		13.11.21
13	9/14 孚美写真 中村ノート書 棚4	カレンダー1990、1991 たかを		13.11.21
13	9/14 孚美写真 中村ノート書 棚5	器 総記 椀 皿 たかを	9/14 2階(たかを書 齋) 孚美写真 中村 ノート書棚	13.11.21
13	9/14 孚美写真 中村ノート書 棚6	文化人類学 京都 たかを		13.11.21
13	9/14 孚美写真 中村ノート書 棚7	1988.8 ヨーロッパ旅行スライド 中村孚美		13.11.21
13	9/14 孚美写真 中村ノート書 棚8	博多山笠資料 雑誌パンフ 中村孚美		13.11.21
13	9/14 孚美写真 中村ノート書 棚9	高岡御車山1 1975 孚美		13.11.21
14	1/2 孚美写真 1	<スライド>・高岡御車山 75.4.30朝昼 チュー リップ ・高岡御車山 75.5.1		13.12.12
14	1/2 孚美写真 2	・Ashanti ・博多山笠1 ・博多山笠2 ・博 多山笠3 ・博多山笠4		13.12.12
14	1/2 孚美写真 3	穂高お舟お祭り 1970-1971, 秩父祭り 1971		13.12.12
14	1/2 孚美写真 4	博多祇園山笠 1974 、松ばやし・ドンタク 1975	2F書齋C(たかを書 齋) 孚美写真 衣装 ロッカー上段1/2	13.12.12
14	1/2 孚美写真 5	大垣祭り 1972 諏訪お舟祭り 1974		13.12.12
14	1/2 孚美写真 6	大津祭り 1974		13.12.12
14	1/2 孚美写真 7	博多祇園山笠 1974		13.12.12

15	2/2 1	孚美写真	秩父夜祭り 1962, 毛越寺延年, その他	2F書齋C (たかを書齋) 孚美写真 衣装ロッカー上段1/2	13.12.12
15	2/2 2	孚美写真	角館飾山囃子 1969、川越祭 1970		13.12.12
15	2/2 3	孚美写真	1962年 前後		13.12.12
15	2/2 4	孚美写真	レコード		13.12.12
15	2/2 5	孚美写真	・大償神楽, 早池峰神楽, 毛越寺延年1962, 8, 17~19, ・大垣、諏訪、川越、大津祭り, ・穂高・川越・秩父1970-1971, ・秩父、大垣1971-1972		13.12.12
15	2/2 6	孚美写真	・民博の曲物 ・カゴ細工資料 ・鉄之図鑑・輪標		13.12.12
15	2/2 7	孚美写真	・北アジア、ラップ・エスキモー関係ノート (外国文献), ニコライ学院ロシア語ノート, 語学ノート		13.12.12
15	2/2 8	孚美写真	聞き書き集①、聞き書き集②		13.12.12
16		孚美先生フィールドノート	④孚美先生フィールドノート24,12,1和室東側小棚in (10冊+コイン)	1F和室 (孚美書齋) 孚美先生フィールドノート・博多メモ (ブルーバック③④in) 1 F 東側本棚in	13.12.12
16		孚美先生フィールドノート	③孚美先生24,12,1 フィールドノート 和室東側小棚in (3冊)		13.12.12
16		孚美先生フィールドノート	⑤の内 24,12,1 ⑤の中でカゴに入っていた資料、博多山笠関係		13.12.12
17	3/14 A4メモ1	講義ノート	博物館講義ノート	3/14 2F書齋C (たかを書齋)・講義ノート A4メモ	14.1.29
17	3/14 A4メモ2	講義ノート	群馬県土壌生産性分級図		14.1.29
17	3/14 A4メモ3	講義ノート	経済関係 新聞切り抜き		14.1.29
17	3/14 A4メモ4	講義ノート	中村孚美の授業ノート		14.1.29
17	3/14 A4メモ5	講義ノート	籠資料		14.1.29
17	3/14 A4メモ6	講義ノート	博物館関連ノート①		14.1.29
17	3/14 A4メモ7	講義ノート	博物館関連ノート②		14.1.29
17	3/14 A4メモ8	講義ノート	博多山笠 資料		14.1.29
17	3/14 A4メモ9	講義ノート	写真ネガベタ焼き①		14.1.29
17	3/14 A4メモ10	講義ノート	写真ネガベタ焼き②		14.1.29
17	3/14 A4メモ11	講義ノート	秩父関係写真ネガベタ焼き		14.1.29
17	3/14 A4メモ12	講義ノート	中村俊亀智 履歴書		14.1.29
17	3/14 A4メモ13	講義ノート	中村たかを・孚美 弘前旅行写真集		14.1.29
18		中村孚美関係ノート・写真1	・AFRICAN KINGDOMS ・かきこみ用抜刷	2F書齋C (たかを書齋)・中村孚美関係ノート・写真	14.1.30
18		中村孚美関係ノート・写真2	・ボアズコピー ・イロクォイ年表		14.1.30

18	中村孚美関係 ノート・写真3	political system politicalstructure & process		14.1.30
18	中村孚美関係 ノート・写真4	・「三色旗」昭和60年7月号“博多山笠の頃” Japanese		14.1.30
18	中村孚美関係 ノート・写真5	社会民俗辞典 その他「着物その他」		14.1.30
18	中村孚美関係 ノート・写真6	・手紙 ・名簿		14.1.30
18	中村孚美関係 ノート・写真7	Urban Anthropology		14.1.30
18	中村孚美関係 ノート・写真8	写真フィルム		14.1.30
18	中村孚美関係 ノート・写真9	写真フィルム・角館1969		14.1.30
18	中村孚美関係 ノート・写真10	写真フィルム・55年9月18日 ・山王祭り		14.1.30
18	中村孚美関係 ノート・写真11	写真フィルム・博多山笠 ・博多どんたく		14.1.30
18	中村孚美関係 ノート・写真12	写真フィルム・秩父 ・つく舞（千葉）		14.1.30
	中村孚美関係 ノート・写真13	法人類学		14.1.30
18	中村孚美関係 ノート・写真14	中村孚美論文・都市の概念・都市人類学の課題・ 文化人類学の視角		14.1.30
19	中村たかを写真 ネガ		2F書斎C（たかを書 斎）	